

(様式 1-5)

鮫川村 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和3年10月22日時点

※本様式は1-3, 1-4に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	さめがわ村の魅力発信事業	事業番号	A - 1
事業実施主体		鮫川村	総交付対象事業費		38,579千円
既配分類		千円	当該年度交付対象事業費		1,695千円
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業					
①情報発信事業					
				小計	1,695千円
i) 風評動向調査					
ii) 体験等企画実施					
					1,695千円
iii) 情報発信コンテンツ作成					
iv) ポータルサイト構築					
②外部人材活用					
				小計	千円
i) 企画立案のための外部人材の活用					
ii) 地域の語り部の育成					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修					
風評の払拭に関する目標					
【アウトプット】					
● さめがわ村の魅力発信通信の発行数：5,000部/1発行回（年4回発行+村SNS掲載） 東京都北区役所及び関係団体への通信掲載（上記発行に合わせ年4回依頼）					
● メディア等による魅力発信 本村の生産する野菜の安全、美味しさに関する情報を動画にし、村の公式ホームページ、facebook、LINE等での県外の消費者への発信、物販時における動画の放映等を実施 動画の作成本数：1本/年					
【アウトカム】					
● 県外者の村ファンクラブ新規登録者数：年間50名以上の増を目指す R3.8：135名 ⇒ R9.3：400名					
● 県外来訪者のイメージアップ：来訪後のイメージアップ7割以上 村内協力飲食店において、県外からの来訪者対象に来村前後における意識の変化についてアンケートを300人以上で実施					
● 村の農産物の購入者数の増加：県外の定期購入者 年間10名以上の増を目指す R3.8：15名 ⇒ R9.3：50名 333%アップ					
事業概要					
事業実施主体		鮫川村			
主な企画内容		農産物等の安全、自然豊かな景観の魅力等の発信			
主な事業の実施場所		鮫川村内一円			
事業の実施期間		R3.12~R8.3			

企画内容

【実施体制】

- ・ 事業主体：鮫川村
- ・ 連携団体及び役割分担
 - 鮫川村商工会（加盟事業所の情報収集・提供）
 - 鮫川村農産物加工・直売所「手まめ館」（生産者及び産物の情報収集・提供）
 - （有）鹿角平観光センター（事業取り組み内容の情報提供）
 - 鮫川村密着地域紙「さめがわ豆新聞」（村民の活躍情報の収集・提供）
 - （株）ル・プロジェ（さめがわファンクラブ運営、通信発行）
 - 特別栽培米PR動画制作委託業者
 - 特別栽培米及び村の野菜を使った新メニュー開発委託者
 - 東京農業大学（開発食品の試食や風評被害についてのアンケートの協力）
 - 東京鮫川会（情報発信の支援）

【現状・課題】

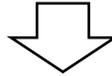
<現状>

- ・ 鮫川村は、除染、生産された農産物の検査等を通じて、安全に過ごせる村となっている
- ・ 東日本大震災から10年が経過したものの鮫川村における観光入込客数は震災以前の水準の回復に至っていない（平成22年度は42,748人、令和2年は27,990人 35%減少）
特に20～30代といった若い世代での減少が大きい
- ・ 2010年6月から東京農業大学と山村環境の整備・整備再生・発展、地域再生・活性化の人材育成教育、伝統文化維持・発展等のための連携協定を締結するなどして村の活性化を図っている

<課題>

主に県外者に対し、鮫川村産農産物（特に米）等の安全、鮫川村が有する里山の原風景の魅力等についての情報発信が継続的に発信できておらず発信力も弱い

鮫川村の現状、魅力等が広く伝わっていないと思料
県内産食品の忌避に伴う購入意欲の減退、観光客数回復の鈍化等につながっていると思料



鮫川村産農産物（特に米）等の安全、鮫川村が有する里山の原風景の魅力等について継続的、効果的に発信できるコンテンツの作成等が必要

【現状の課題に対するこれまでの取組】

- ・ 村農産物の出荷前モニタリング検査
- ・ 米の全袋モニタリング検査（2020年からは抽出検査）
- ・ 各種イベントの実施（特産品PR・首都圏内での物販や交流イベントの実施等）
- ・ 鮫川村特別栽培農産物認証制度による環境に配慮した農業の推進
- ・ さめがわファンクラブの創設

【事業実施により得られる効果】

- ・ 環境、食品等の安全に関する風評の払拭を図る
- ・ 農産物、里山の原風景等の魅力の発信により村のイメージの向上を図る

【今年度事業における具体的な取組内容】

① さめがわ村の魅力発信事業

<概要>

食品等の安全、鮫川村の有する里山の原風景等の魅力について、SNSを活用したデジタル広報、情報誌によるアナログ広報で情報を発信。

特に食品等の安全性の発信については、鮫川村産米おいしさ等について、食べてもらい、知ってもらうためのコンテンツとして鮫川村産米を使用したキャンプで使えるアルファ化米の試供品を作成。

開放感ある風景の下、のんびりした時間を楽しむことができる鹿角平キャンプ場が鮫川村にはあり、行く行くはキャンプ場でも活用してためにアルファ化米を使用したキャンプ飯のメニュー開発も行っていく。

なお、試供品のモニターは、東京農業大学や首都圏物販時のお客さんの協力により募集。老若男女の幅広い層からアンケートによる意見聴取を実施する。次年度以降に聴取した意見を基に、鮫川村産米を活用したメニューの開発を行っていく。

鮫川村の有する里山の原風景等の魅力の発信については、SNSを活用したデジタル広報として動画を展開するほか、情報誌によるアナログ広報では連載記事として情報を発信していく。

実施期間：R3.12月～R4.3月

実施体制：上記のとおり

概算費用：1,695千円（業務委託料）

ターゲット：関東を中心とした福島県に対する風評を持っている者

<情報発信の特徴>

コミュニティに参加するファンからの口コミは、実際の体験談等として広く伝わり、同様の結果を求める消費者に対して情報の訴求力が高まる。ファンが仲間を紹介し、新たなファン層の拡大につながる。風評の払拭に当たり、様々な世代をターゲットへの発信・拡散を図るためにアナログ、デジタルの媒体を活用して草の根で情報発信を行う。

活用するコミュニティとしては、東京農業大学、首都圏物販時の客等の協力による実施を予定。

① デジタルに強い10～60代前半の青年、壮年、中年には、SNSを活用した情報を発信

- ・ 公式SNSへの掲載に留まらず東京農業大学学生と連携を図る
- ・ 大学生を中心としたSNS上での口コミより拡散を図る

② アナログに強い65以上の高年には、情報誌による発信と情報誌からの口コミによる情報発信

- ・ 会員からのリアルな意見による情報の発信を図る
- ・ 正確で信頼される情報の発信を図る

試供品のモニターの募集は、東京農業大学教員・学生、首都圏物販時の客等により実施することとして、アンケートの回収率を高める仕組みとする。回収率80%以上を目指す。また、志向度や値段設定についてのアンケートとして東京鮫川会会員などを通じ、購買しやすい商品化に向けたアンケートを別途実施する。総体として400人にアンケートの配付を目指し、1人2袋を配付することとし余裕をもって、1,000袋の試供品を製造委託する。

【今年度事業における目標】※複数年度にわたって事業を実施する場合

アウトプット

- ・ 情報発信体制としての連携団体の確立と情報提供
- ・ 風評払拭につながるアイテムとしての新たな特産品（アルファ米）の開発（試供品製造1,000パック）

アウトカム

- ・ 情報発信連携団体との風評対策に対する情報の収集
- ・ 県外ファンクラブ会員数→年間50人増員

【今年度事業の実施により得られる効果】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- ・ファンクラブ会員を情報提供担当者として任命し、村の情報発信に努めてもらうため情報網が広がる
- ・生産現場からの農産物モニタリング情報の提供による県外者の風評払拭につながる
- ・観光情報を含めた情報発信による来訪の動機づくりができる
- ・安全、安心を裏付けする農産物の認証制度を広め、県産農産物の消費拡大を図ることができる

【次年度以降の取り組み】※複数年度にわたって事業を実施する場合

- ・風評払拭のための継続的な通信発行業務及びSNS（Facebook・Twitter・LINE）での発信
- ・ファンクラブ会員や東京農大の学生などを拠点に、風評払拭のため有益な情報はどのようなものかアンケートを実施
- ・上記アンケート結果を踏まえた、通信掲載内容の検討
- ・積極的に村の情報発信している人を集めたミーティングを開催し、村の魅力などについて外部の目で客観的に評価する
- ・特別栽培米のアルファ米を活用し、キャンプやお手軽食としてのさまざまな用途での普及
- ・アルファ米を東京農業大学の学生、教諭や首都圏物販時の客を対象に試食（モニタリング）を行い、消費のしやすさやコンセプト、日常的な消費への対応などの観点でアンケートを行う
- ・アルファ米パッケージのデザインを委託するとともに、栽培工程等をつうじた米の安全をPRする動画をQRコードとしてパッケージに印刷し、食味を体感してもらうとともに米の安全性についても知ってもらう（動画の内容については、情報誌によるアナログ広報でも掲載予定）
- ・特別栽培米のPR用動画を制作し、安全安心な米の販売を促す
- ・県外者がもつ福島県産農産物のイメージを払拭し来訪への動機となる環境をつくる
- ・村外で事業展開する際のリーダーの設定や支援の要請

【新型コロナ感染拡大防止対策】

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、国・県が発出する通知・ガイドラインに則った形で事業を実施いたします。

<具体的な対策>

- ・事業実施のための打合せ等は、極力対面を避けリモートで行うこととする
- ・情報収集のための取材時には、人との距離を保ちながら行うこととする
- ・来訪を促す事業でもあるため、感染対策の徹底も文面に掲載することとする

鮫川村窓口担当者名：矢吹 直美 メールアドレス：soumu@vill.samegawa.lg.jp 電話番号：0247-49-3111